第62期　定時株主総会

JBCCホールディングス株式会社
証券コード：9889（東証プライム市場 情報・通信業）

2026年6月19日

AGENDA

- 2026年3月期　決算概要
  　および中期経営計画「CHALLENGE 2026」進捗
- AIを成長戦略の中核に据え
  　中長期の“稼ぐ力”強化への戦略投資

Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

4期連続増収増益を達成

売上高に占めるストック比率が**50%を超え**
安定した収益基盤を確立

2026年3月期

760億
売上高
前期比 ⬆8.8%

73億
営業利益
前期比 ⬆18.7%

9.6%
営業利益率
前期比 ⬆0.8pts

5期
連続最高益
更新

01 26.3期実績：4期連続増収増益、5期連続最高益を達成

- 中期経営計画の当初売上高目標 720億円を1年前倒しで達成
- 注力事業の成長が増収増益を牽引、事業構造変革が加速

02 27.3期予想：増収増益を継続、営業利益率11%達成へ

- 中期経営計画の最終年度として、目標を確実に達成するために重要な1年
- 業績予想: 売上高 795億円(前期比 ⬆4.6%)、営業利益 87.5億円(前期比 ⬆19.7%)
- 株主還元: 前年比8円増配、1株当たり配当金 50円

03 生成AIの急速な広がりを次の成長機会と捉え、中長期の”稼ぐ力”を強化する戦略投資を本格化

- AI時代のお客様ニーズに伴走するビジネスモデルへの転換を推進
- 「Customer Innovation Team」と「AI Orchestration Platform」を軸に、ストック型のビジネスを拡大
- AI駆動開発の手法を取り入れ、「JBアジャイル」をさらに進化

Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

2026年3月期　事業セグメント別概況

ＳＩ　**超高速開発の正常化**に加え、従来型開発も堅調に推移、**大幅増収増益**

サービス　注力事業の**クラウド**、**セキュリティ**が市場成長を大きく上回り、**業績を牽引**

（百万円）

事業セグメント（各事業分野に含む注力事業）	2026年3月期　実績					
	売上高	前期比	売上総利益	前期比	売上総利益率	前期比
情報ソリューション	73,879	⬆8. 8%	23,055	⬆16.7%	31.2%	⬆2.1pts
SI （超高速開発）	19,135	⬆12.0%	7,163	⬆35.8%	37.4%	⬆6.6pts
サービス （クラウド、セキュリティ）	43,683	⬆13.0%	13,492	⬆13.0%	30.9%	⬆0.0pts
システム	11,060	⬇9.1%	2,399	⬇5.9%	21.7%	⬆0.7pts
製品開発製造	2,140	⬆8.5%	1,136	⬇6.0%	53.1%	⬇8.2pts
合計	76,019	⬆8.8%	24,192	⬆15.4%	31.8%	⬆1.8pts

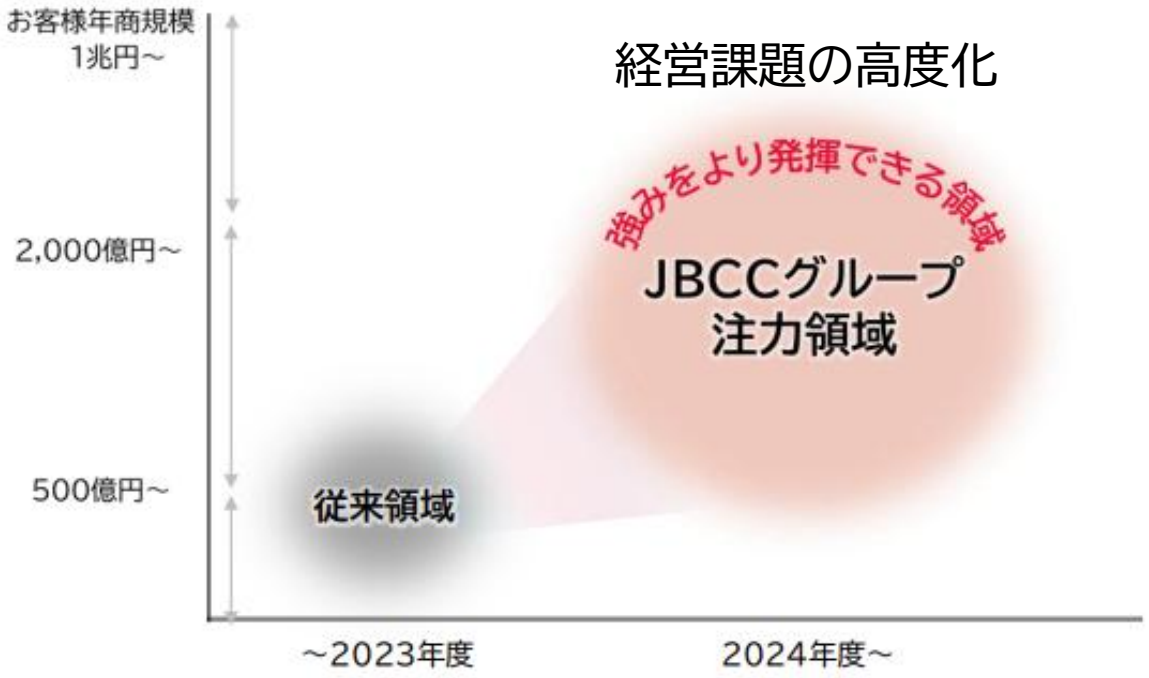
Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

当社の成長戦略 ー より大手のお客様へ事業領域を拡大

お客様の課題

DX対応を進め、最適にITを活用することで経営課題を解決

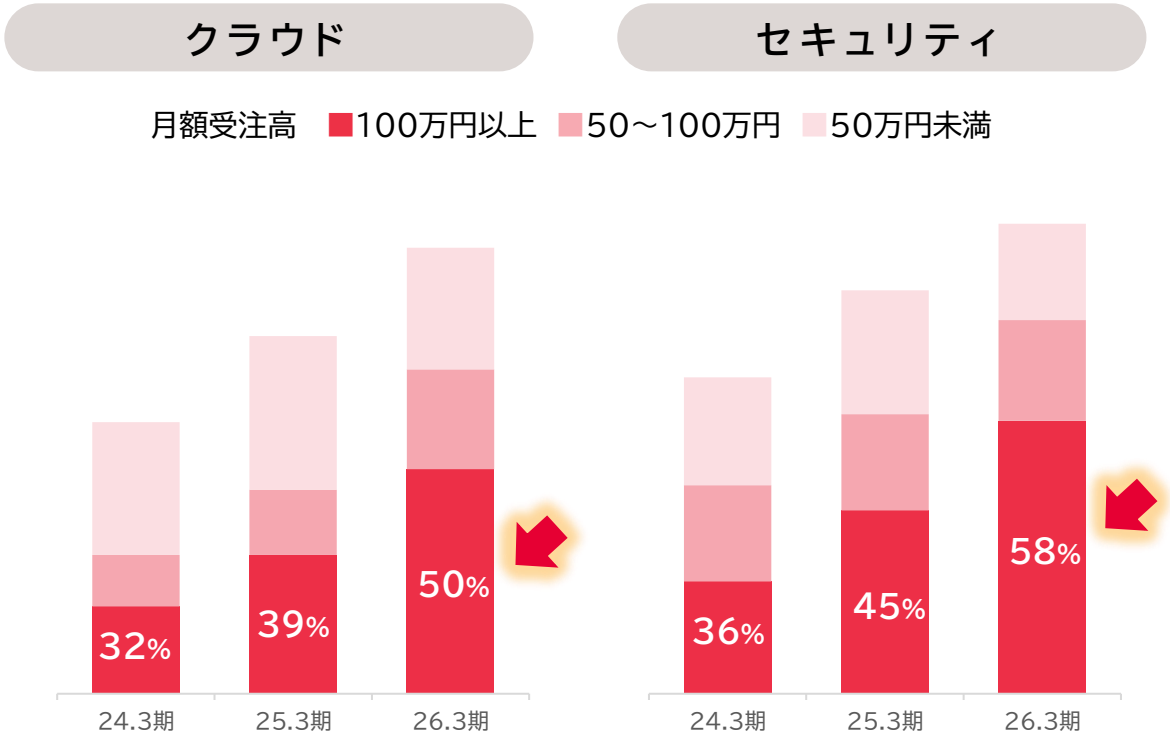
- IT人材、DX人材の不足
- クラウドコスト管理と利活用
- データ&AI活用の推進
- 高度化・複雑化するサイバー攻撃への対応
- 変化に対応可能な基幹システムの構築
- 部分最適にとどまるベンダーからの不十分な提案



戦略に沿い、案件規模が順調に拡大

24.3期 ▶ 25.3期 ▶ 26.3期 で大型案件比率が継続して拡大

新規月額受注高100万円超の大型案件比率



(※)中核事業会社であるJBCC株式会社の実績

Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

注力事業 クラウドの進捗 ー 市場成長を大きく上回る成長

2026年3月期 実績（24.3期▶26.3期）

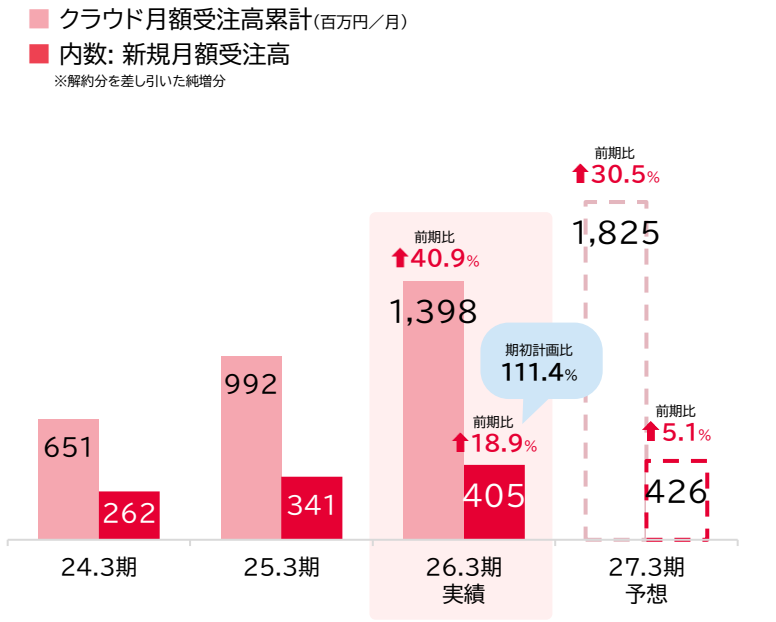
売上高CAGR	売上総利益率
43%	±0pts

中期経営計画目標（24.3期▶27.3期）

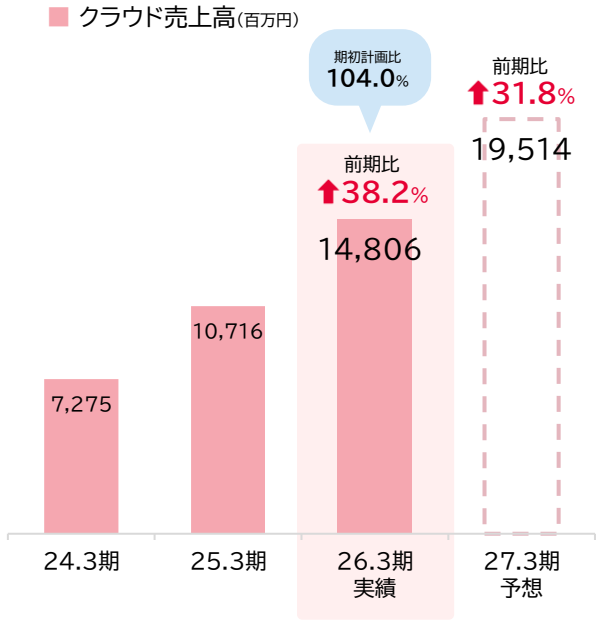
売上高CAGR	売上総利益率
36%（売上高180億円）	+1pts/年

業績推移

月額受注高



売上高



※契約後のサービス順次開始（最短翌月～最長6ヶ月後）により将来売上高に計上される金額（月額ベース）

01 市場環境: クラウド需要の構造的な拡大

国内パブリッククラウドサービス 2025-2030 CAGR17.6% 成長予想

- VMwareライセンス変更によるクラウド移行加速
- 半導体メモリの需給逼迫によるサーバー機器の価格上昇・納期遅延がクラウド移行の新たな追い風
- AI活用を前提に全社横断での利用管理・統制に対する課題顕在化

02 当社の強み: マネージドサービス型で提供

- IaaS: 運用およびコスト最適化機能を備えたクラウドサービス「EcoOne」とマルチクラウド提案力
- SaaS: 無償ワークショップによる利活用支援が他社との差別化 Microsoft 365・Copilot／kintone／Box（オンラインストレージ）

03 次の打ち手: ガバナンス領域への展開

- Microsoft Copilot ワークショップによるデータ＆AI活用支援
- Microsoft 365 ガバナンス強化提案
- kintone プラグイン「ATTAZoo Governance」提供開始

Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

注力事業 セキュリティの進捗 ー 市場成長を大きく上回る成長

2026年3月期 実績（24.3期▶26.3期）

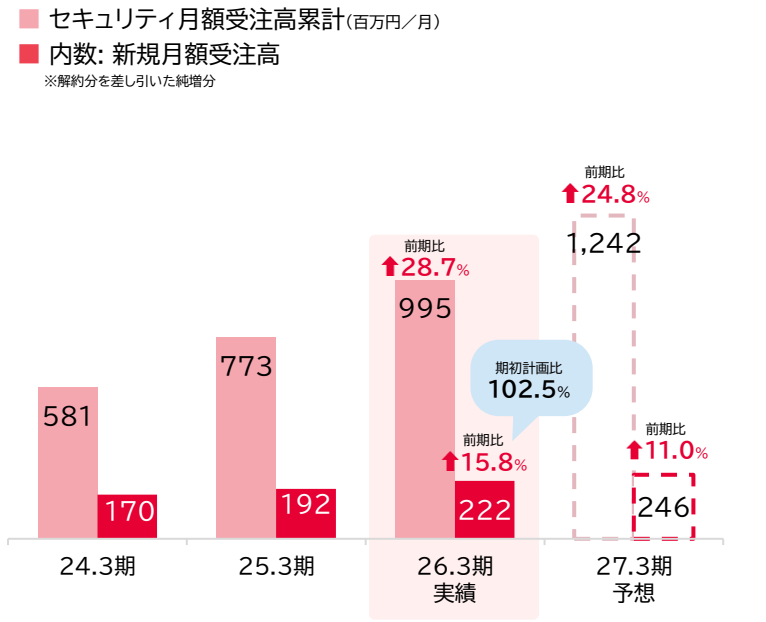
売上高CAGR	売上総利益率
34%	+1.8pts

中期経営計画目標（24.3期▶27.3期）

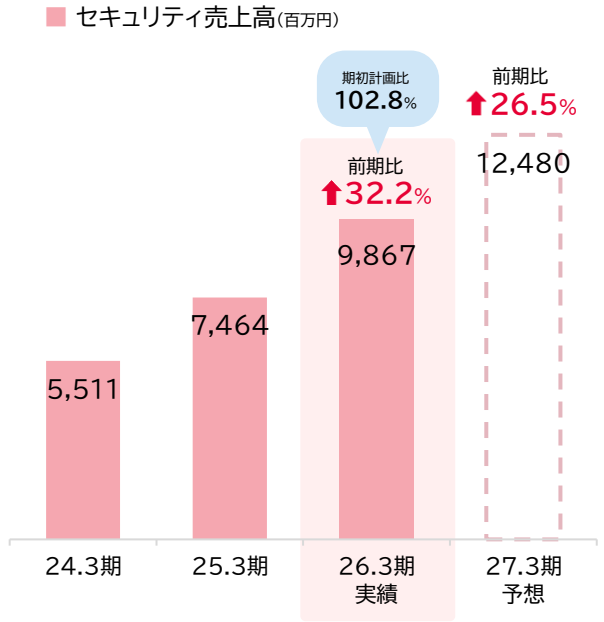
売上高CAGR	売上総利益率
30%（売上高120億円）	+1pts/年

業績推移

月額受注高



売上高



※契約後のサービス順次開始(最短翌月～最長6ヶ月後)により将来売上高に計上される金額(月額ベース)

01 市場環境: セキュリティ脅威の複雑化・深刻化

国内セキュリティサービス 2025-2030 CAGR7.2% 成長予想

- ランサムウェアなどのサイバー攻撃激化
- 生成AI普及による新たな情報漏洩リスク

02 当社の強み: マネージドサービス型で提供

- 脅威分析・対応とSASE／CASB／SWGなどへの対応力を支える、クラウド×セキュリティの高い技術力と統合ログ分析・対応基盤
- Attack Surface診断サービス・脆弱性マネジメントサービスによる全体最適提案

03 次の打ち手: 新制度に応える伴走支援の拡充

- 経済産業省「サプライチェーン強化に向けたセキュリティ対策評価制度」（2026年度末頃開始予定）対応支援／継続的な対策強化を支える伴走型サービスの拡充
- 「Security for AI ー AIの活用をセキュアに」「AI for Security ー AIでセキュリティ強化」の二軸で既存サービスのAI高度化／AI前提の新規サービスを開発

Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

注力事業 超高速開発の進捗 ー 進行中のプロジェクトを着実に完遂

2026年3月期 実績（24.3期▶26.3期）

超高速開発比率 **56%**

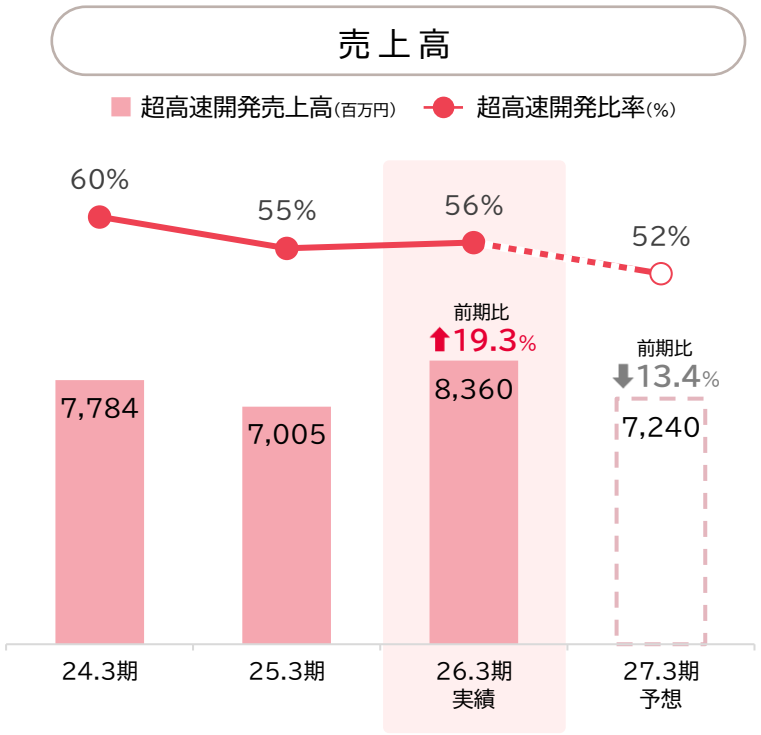
売上総利益率 **+9.8pts**

中期経営計画目標（24.3期▶27.3期）

超高速開発比率 **75%**

売上総利益率 **+10pts**

業績推移



01 市場環境: 基幹刷新需要は継続的に拡大

国内ITモダナイゼーションサービス 2025-2030 CAGR16.2% 成長予想（リビルド）

- 大企業・中堅企業の約8割がレガシーシステムを保有
- 企業のIT／DX人材不足、変化に対応可能なシステムへのニーズ
- 中長期的にAI／生成AIの活用を前提とした基幹システムのモダナイゼーションを含む全社DXが大企業中心に加速

02 当社の強み: 10年以上のアジャイル型開発実績

- ERPパッケージでは対応できないお客様固有の競争優位性の実現
- JBアジャイル開発フレームでより高い精度でお客様の要求を具現化

03 次の打ち手: AI領域への戦略投資へ舵を切る

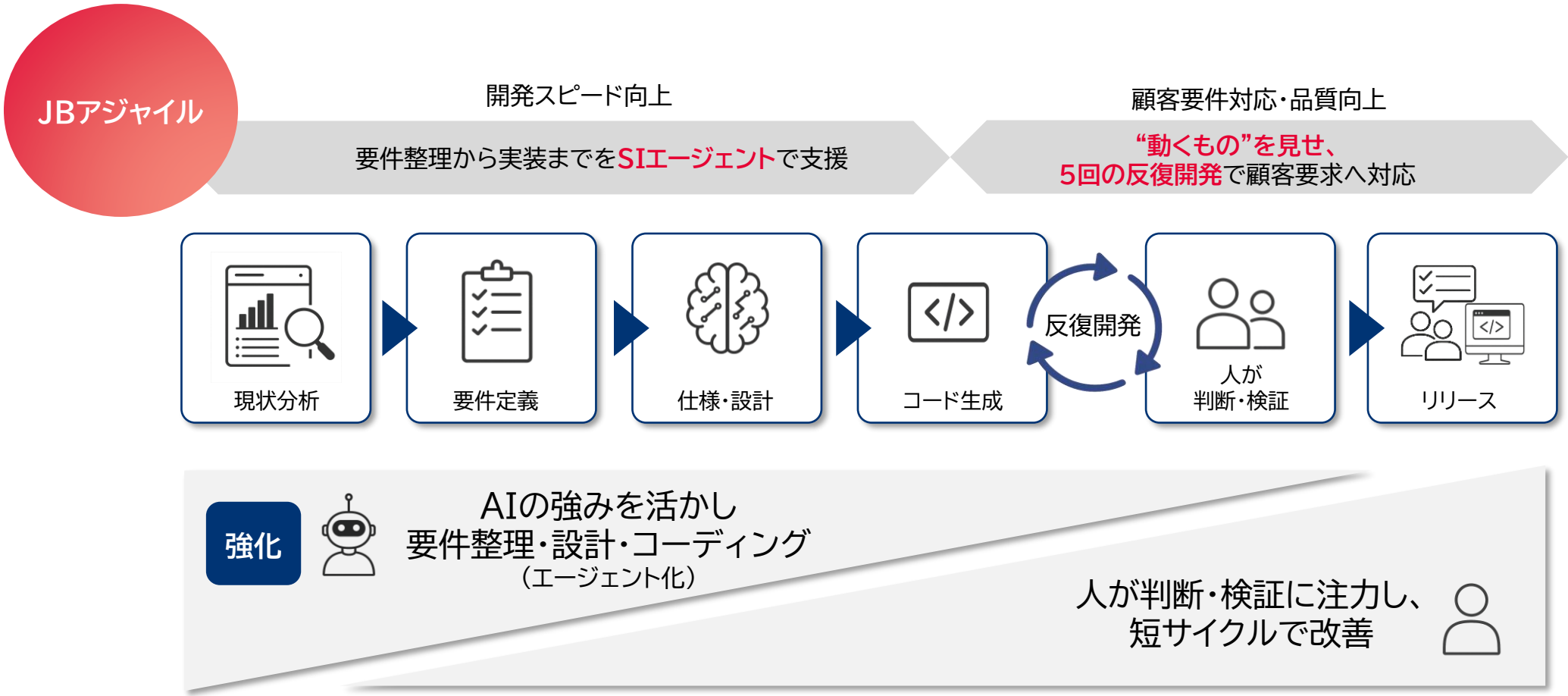
- AI駆動開発の手法を取り入れたJBアジャイルのさらなる進化と人材育成
- 目先の売上利益にとらわれず、中長期の“稼ぐ力”確立を最優先
  （超高速開発比率の中計目標を見直し、AI領域にリソースを重点配分）

中長期の”稼ぐ力”を一段と強化する戦略投資へ

Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

JBアジャイル×AI駆動開発で開発力を進化

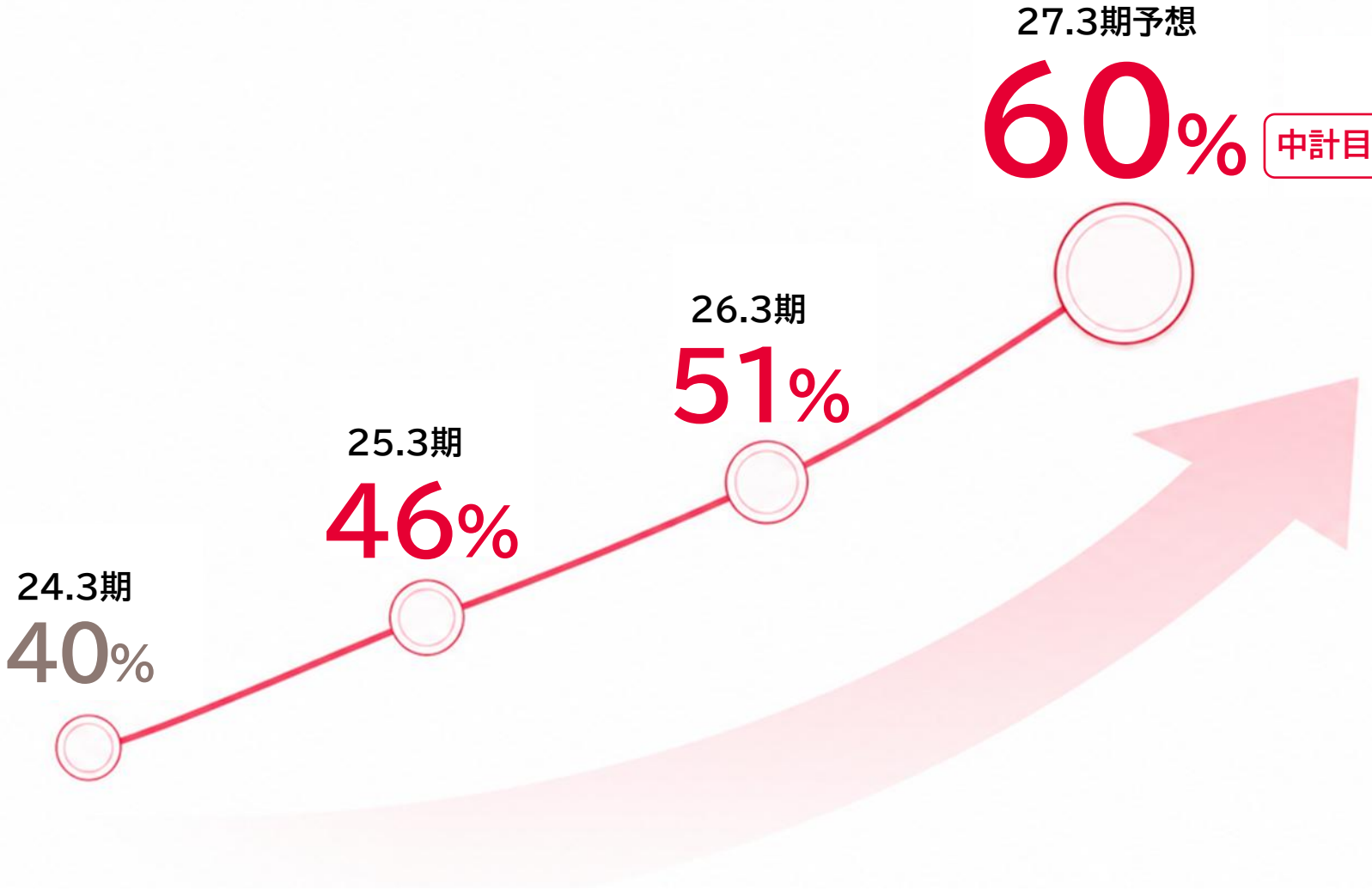
AIで要件整理・設計・実装を高速化し、
“動くもの”を見ながら顧客要求を具体化することで、業務に適したシステム開発を実現



Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

ストックビジネス比率の拡大 ー 安定した収益基盤の実現

中計3カ年で40%から60%へ、2年で+11ptsを着実に実現



26.3期 ストックビジネス内訳

● クラウド　26.3実績 19.3%

- マネージドサービス付きクラウドサービス
  IaaS、SaaS、PaaS　etc.

● セキュリティ　26.3実績 14.5%

- 診断サービス
- マネージドサービス付きセキュリティサービス
  クラウドセキュリティ、脅威分析・対応、
  メール、ゲートウェイ、端末　etc.

● ストックその他　26.3実績 17.4%

- 運用サービス
- 保守サービス
- 監視サービス
- ヘルプデスク

計 51.2%

Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

人材戦略の進捗 ー 持続的な企業価値創造を実現する最も重要な鍵

- 各施策を推進し、人材戦略投資はペースアップ、生産性は1年前倒しで目標達成
- 変革を支える人的資本基盤として、AI人材育成を起点としたスキルのモダナイゼーションを強化・加速

施策

採用

- 新卒採用：エントリー者数 前年比 **1.3倍**　'26.4 入社者数 **69名**
  リクルーター制度を軸とした採用手法のブラッシュアップにより、量・質ともに新卒採用基盤強化
- キャリア採用：エントリー者数 前年比 **5.1倍**　'26.4 入社者数 **58名**
  採用エージェントとの連携強化と、ダイレクト採用等の手法のマルチチャネル化により、エントリー数が大幅に増加

育成

- 研修の新規実施：26.3期 実績 **185回**（日程単位）
- 「個人キャリアビジョン」の明確化と価値創造型人材のバリューの醸成を可能とする各種プログラムの実行、および研修後のフォローアップの仕組みを構築

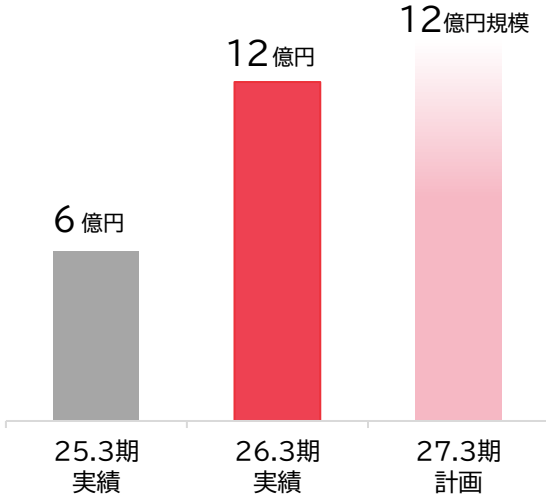
処遇制度

- eNPS：（エンゲージメントサーベイ） 26.3期 実績 **-37**（前回実施比 +7pts）
- サーベイ結果に基づくエンゲージメント施策、成果主義カルチャーの浸透と人材ポートフォリオマネジメント開始
- 評価制度／定年延長／社内公募／Team Agreement／自己啓発／DE&Iなど複数の人事制度を改定

2025賞与ランキング（情報通信業・日経新聞社調べ）
夏 **4位** /22社　冬 **2位** /27社

人材戦略投資

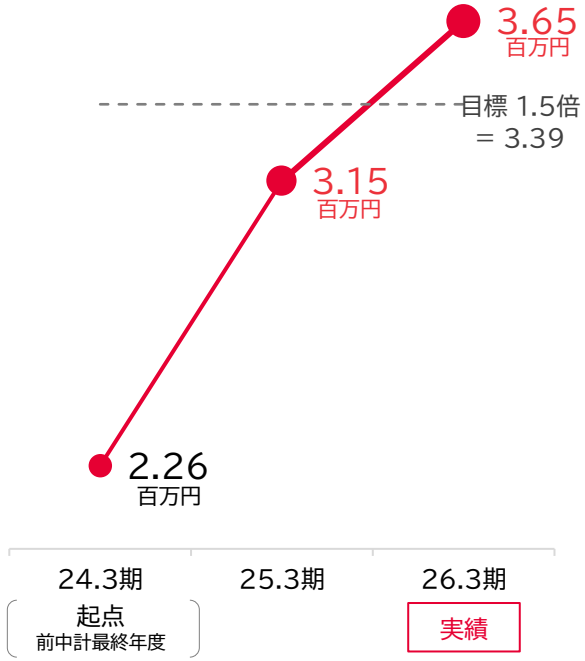
計画比　+20%のペースで進捗



累計 18億円　総額 30億円規模
（計画比+20%）

従業員一人あたり営業利益

1.5倍目標を既に達成



起点比+61.5% / 目標達成済み

Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

2027年3月期　業績予想

- 中期経営計画の最終年度として、目標を確実に達成するために重要な1年
- 注力事業「クラウド」「セキュリティ」「超高速開発」のさらなる進化・深化
- 生成AIの急速な広がりを次の成長機会と捉え、中長期の”稼ぐ力”を強化する戦略投資を本格化

売上高	営業利益	親会社に帰属する当期純利益	1株当たり配当金
	営業利益率 11%以上		
795億円	87億円	60億円	50円
前期比 ⬆4.6%	前期比 ⬆19.7%	前期比 ⬆12.9%	前期比 ⬆8円増配

- 5期連続増収増益
- 6期連続最高益
- 6期連続増配

Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

AGENDA

- 2026年3月期　決算概要
  および中期経営計画「CHALLENGE 2026」進捗
- AIを成長戦略の中核に据え
  中長期の“稼ぐ力”強化への戦略投資

Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

生成AIによるCHALLENGE ー社内AI実装を起点とした顧客提供力の強化ー

社内AXによる生産性向上

J-AInnovation 社内業務へのAI実装

48%の社員が毎日利用 / 1,800超のAIエージェントを開発

- 経理／人事／法務／総務など59部門へ拡大
- AIユースケース
  - 経理：会計基準判定／収益認識の自動化
  - 人事：採用プロセスの自動化
  - 法務：法務ナレッジを活用したAI調査・回答支援
- 社内実装で蓄積したAIエージェント機能を共通モジュール化
  - 社内外の業務アプリケーションとの連携機能を再利用可能な部品として整備
- 社内業務プロセスの再設計プロジェクト始動
  - 案件創出／販売管理／収益管理／経営分析などを対象

社内実装で蓄積した知見を顧客提供へ活用



利用ルール
権限設計



AI活用
ユースケース



現場定着
運用ノウハウ

社内実装を通じて
蓄積した知見を
顧客提供へ活用

顧客向けAIサービスへの展開

AXを実現に向けた提供サービス

- AX ワークショップ
- AX CoE伴走支援サービス（社内AIアンバサダーの醸成）
- AIガバナンス設計（ルール・ガイドライン）サービス
- AI ユースケース開発サービス
- 業務プロセス再設計サービス

AXワークショップ、CoE伴走支援、ユースケース開発への引合いが拡大

AI駆動開発による提供力強化

- 仕様解析・現新比較・機能統廃合分析を支援するエージェントを開発
- コードや移行対象データの品質レビューを支援
- 長期記憶機能を実装したSIエージェントを実装・検証

SIエージェント × 長期記憶機能搭載

品質とスピードの再現性向上を支えるSIエージェントを実装・検証

Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

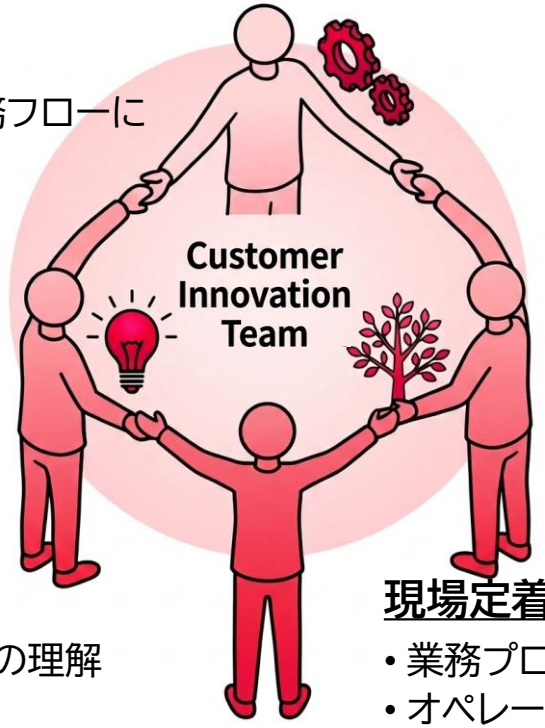
JBCCグループのAIサービスモデル構想 ー Team × Platform

- 私たち自身がAIを前提に社内業務プロセス・働き方を再設計し、その実践知をお客様価値に転換
- Team で現場に入り、“使い続けられる” Platformを提供
- アセットの活用 → 蓄積 → 再活用のサイクルで、付加価値を継続的に向上

Customer Innovation Team

FDEをモデルに組織を超えたチームで価値提供

実装力
- お客様環境・業務フローに合わせた開発
- セキュリティ実装
- AIガバナンス



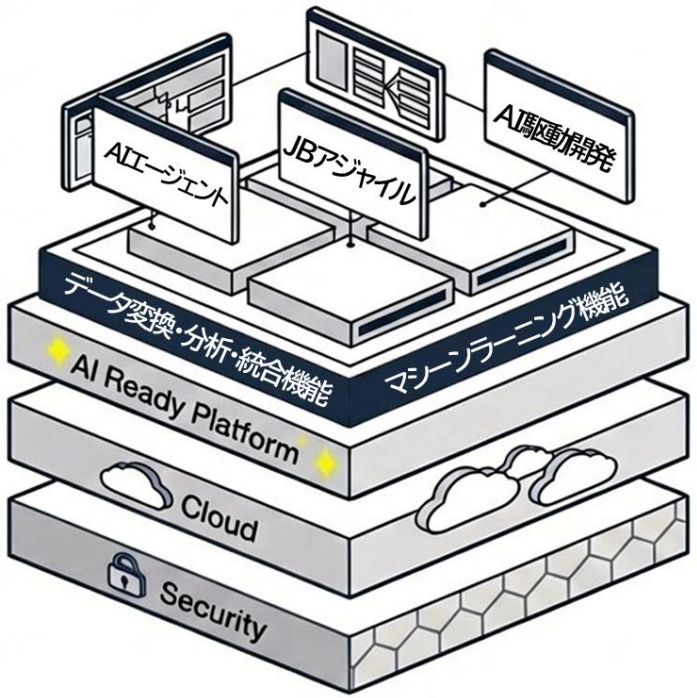
ビジネス理解力
- お客様業務・商習慣の理解
- お客様課題の把握

現場定着力
- 業務プロセス継続改善
- オペレーション定着に伴走

アセットの
活用と蓄積

AI Orchestration Platform

お客様がAIを利用・自走できるAIプラットフォーム



Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

Customer Innovation Team がお客様に提供する価値

お客様のAIトランスフォーメーション実現に向け、構想策定から実装、定着・改善まで一気通貫で伴走支援

コンサルティング　エンジニアリング　定着・改善

①AX共創・文化醸成



- AX文化醸成のワークショップ
- AX CoE支援サービス

人と組織の意識をそろえ、AXの土台を醸成

②ガバナンス・利用環境設計



- 利用ルール／ガイドライン設計
- 権限・セキュリティ設計
- データ整備

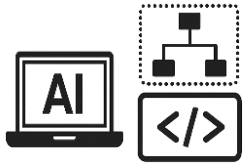
安心・安全にAIを活用できるガバナンス整備

③業務プロセス再設計



業務プロセスを見直し、AIエージェント前提の業務アプリケーションを実装

ユースケース開発



- AIユースケース開発支援
- AIエージェントの試作
- AI駆動開発アプリ試作

ユースケースを具体化し、価値を検証し実装

業務実装・運用設計



- AIエージェント業務実装
- 運用設計
- モニタリング

現場で使える形で実装し、運用整備

④定着・改善



- 現場業務での定着支援
- 利用データの蓄積・分析
- 継続的な改善・機能拡張

現場で使い続けながら、継続的に価値を向上

Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

AI Orchestration Platform — 企業で使い続けられるAI基盤の全体構想 —

AIを安全かつ継続的に業務へ組み込み、価値を生み続ける統合基盤

業務価値を高めるAIサービス

AIエージェント
- 業務プロセスの高度化
- AIによるBPOサービスの提供

AI駆動開発アプリ
- 基幹システムからサブシステムまで仕様駆動開発

分析
- データ分析・需要予測
- 異常検知
- 分析レポート自動生成

AI活用を支える差別化機能

差別化の源泉

長期記憶機能
（スタートアップ連携）
- 顧客固有の業務知識や文脈・履歴を蓄積・保持
- SIエージェントのコア機能

エージェント管理
- 権限管理
- モニタリング

AIワークフロー
データとAIを連携し業務を自動化

テンプレート/部品化
ユースケースや部品をテンプレート化し再利用

データ連携
社内システム・SaaSなどのデータ基盤と安全に連携

データ統合・管理
- データ統合
- アクセス制御

安心・安全拡張性を支える基盤

クラウド＆セキュリティ基盤
高可用・高信頼のクラウド基盤と
ゼロトラストセキュリティで安心・安全なAI活用を実現

JBCCグループの強み

- JBアジャイル
- 運用・伴走力
- 顧客基盤　3,000社以上

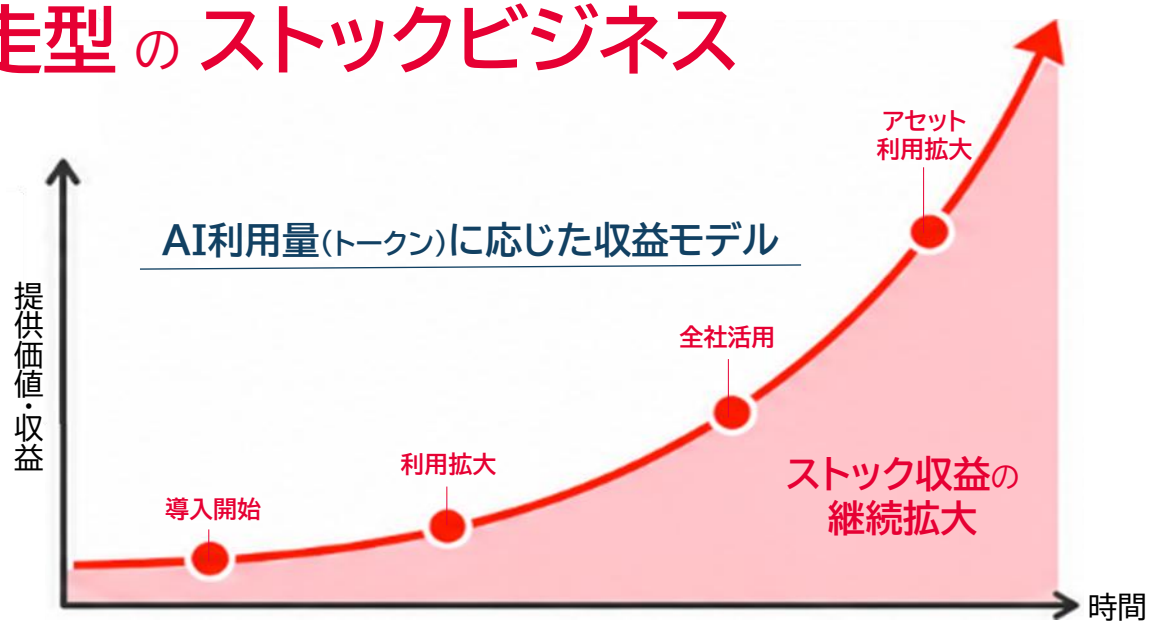
Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

AIビジネスの拡大による収益モデルの進化

	As-Is	To-Be
作業主体	当社	お客様
開発スタイル	委託型	伴走型
収益モデル	フロー	ストック

委託型の
フロービジネス

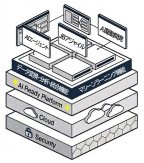
伴走型のストックビジネス



Customer Innovation Team × AI Orchestration Platform により実現



Customer Innovation Team
伴走型サービスで
お客様のAI活用を推進



AI Orchestration Platform
企業で使い続けられる
AI基盤

アセット蓄積・再利用
ユースケース・テンプレート・
ノウハウを蓄積し、次の提
案・実装を加速

適用領域の拡大
部門・業務への展開により、
利用価値と収益拡大

Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

お客様の変革をAIで実現し、伴走する

AI Native Company

Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

お問い合わせ

JBCCホールディングス株式会社
経営企画 ［e-mail : ir@jbcc.co.jp］

資料についてのご注意

- 本資料は、当社の業績及び事業戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社の株式の購入や売却を勧誘するものではありません。
- 本資料に記載されている将来の動向や業績等に関する見通しは、リスクと不確定な要素を含んだ予測であり、将来の業績を保証するものではありません。実際の業績は、様々な要因により見通しとは異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.